

いわせ ほっとニュース



病院フェスティバル

[公立岩瀬病院の基本理念]

患者さん中心の医療を実践し、
地域の皆さんに信頼される病院をめざします。



公立岩瀬病院

<http://www.iwase-hp.jp/>



友だち募集中!

LINE 公式アカウント



YouTube
公式チャンネル



Instagram
公式アカウント

Contents

新年のごあいさつ.....	02
Dr's Cafe.....	03
糖尿病ワーキンググループ.....	04
病院フェスティバル開催.....	05
へき地医療拠点病院について....	05
健康運動.....	06

新年のごあいさつ



公立岩瀬病院企業団

企業長 石堂伸二

新年あけましておめでとございませう。

昨年は、手術支援ロボットの導入や糖尿病専門外来を再開するほか、コロナ禍により開催できなかつた「楽・楽けんこうウォーキング」や「病院フェスティバル」などのイベントを久々に開催するなど、「患者さん中心の医療を実践」し、医療関係者や地域の皆様のご理解とご支援をいただきながら「地域の皆さんに信頼される病院」づくりに取り組んでまいりました。

令和七年は「巳年」であり、「成長」を象徴する年ともいわれております。地域の拠点病院としての役割を担う当院にとりましても、また、医療関係者や地域の皆さんにとりましても、この一年が、更なる成長と発展の年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のあいさつといたします。



公立岩瀬病院

病院長 土屋貴男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より当院の運営に際し、皆様からのご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年、当院では手術支援ロボットを導入いたしました。令和六年九月より泌尿器科と外科にて運用を開始し、多くの患者様が地元で最先端の高度な手術を受けられる環境を整備いたしました。さらに、同年九月三十日付で「へき地医療拠点病院」の指定を受け、地域医療への貢献を一層強化する所存でございます。

本年も、救急医療、周産期・小児医療、がん治療、災害対応に重点を置き、地域の皆様にとつて頼りがいのある存在であり続けるよう努めてまいります。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



公立岩瀬病院

副院長兼看護部長 伊藤恵美

新たな年の初めを迎え、みなさまには健やかに過ごしのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、当院では、ロボット手術の導入をはじめ、スキンケア入院やマタニティヨカなど新たな取り組みを開始いたしました。また、「いのちの授業」や「救急蘇生法」などへの講師派遣や Instagram・YouTube を通じての情報発信も継続し、好評を得ております。

さて、「巳年」の年は、無限の繁栄と豊かな成長が期待できる年とされています。地域のみならず、心より大きな繁栄と成功がおとずれることに心より祈念し、少しでもお役に立てるよう努めて参ります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



医局長兼形成外科部長
阪場 貴夫 医師



爪にまつわる話

日常診療で爪の様々なトラブルに遭遇します。多いところだと、巻き爪の痛み、爪白癬(水虫のこと)からの爪変色や爪の脆弱化、分厚くなってしまい自分で切れない、爪の周りの感染による腫れと痛み、などなど。今回は爪について少しばかりお話してみます。

まず爪ですが、これは皮膚の最も表層の角層部分が特殊に分化したものです。強いて分けるなら皮膚の扱いです。手と足でその役割は少し変わってきますが、まず手の爪なら、細かい作業に役立つ/指先が保護される/かゆいところを掻く、などなど。ネイルという美容的な側面もあるでしょう。足の爪は歩行時に地面からの圧を受け止め、蹴るときに押し返す役割があります。特に足の親指(母趾、と書きます)は歩行時にかかる圧が強いので、ここの爪にトラブルが起こると歩行に支障が大きいのですが、足で一番爪トラブルが多いのはこの母趾です。なにか爪で困ったら、まずお問い合わせください。

① 巻き爪 (これが進行して皮膚に食い込み炎症を起こしたものを陥入爪と呼びます)

治療法は種々ありますが、当院ではまずフェノール法という薬液を使う方法を行っています。食い込んでいる爪の端を根元まで切った上で、爪の出所(爪の根元の白い部分、ここを爪母といいます)に薬液処理を施して、爪端に爪を生えなくする方法です。

爪が少し小さくなりますが目立たない範囲です。指1本のみ麻酔をして30分程度の処置です。

② 肥厚して変形した爪

外来で爪の水虫ですか?とよく質問を受けます。白癬爪かどうかは菌の検査でわかるのですが、白癬爪でなくとも爪が異常に分厚くなることはあります。独特な彎曲を呈して爪が伸びた状態となり(鉤湾爪などと呼びます)、厚みも3-4ミリとなってくると、自宅での爪切りが困難です。この爪切り指導も外来で行っています。

③ 爪周囲の感染

ささくれをむしった後など、そこから菌が入ってよく感染を起こします。ひどくなると膿が溜まり、爪のすぐ横の皮膚に膿が黄色く透けて見えます。まずは、針穿刺により排膿させることが先決です。ささくれは無理にむしらないようにしましょう。

④ 爪白癬

当科のみならず、皮膚科でも広く診察しています。どちらを受診頂いてもけっこうです。数か月を要する治療が必要です。



糖尿病ワーキンググループ

糖尿病と認知症

糖尿病がある方は、ない方と比べ、2倍ほど認知症になりやすいといわれています。血糖値を良好に安定させることで認知症になるリスクを軽減することができます。運動は血糖値のコントロールに効果的であることはご存じの方も多いと思いますが、運動習慣がある方は認知症になるリスクが低いことも分かっています。

寒い季節となり、運動をする機会が少なくなっていますか？そんな時は、普段の生活の中で活動性を上げてみるのはいかがでしょうか。例えば、買い物に出かけたときにスーパーの中を少し長く歩くようにしたり、テレビを見ながら足踏みや踏み台昇降をしたり。いつもの生活の動作に運動を組み合わせたりのもいいですね。できることから少しずつ取り入れて健康に過ごしましょう。



知っていますか？ 低血糖のこと

皆さんは『低血糖』という言葉を知っていますか？血糖値は低ければ良いというものではなく、適正範囲があります。その範囲よりも血糖値が低くなることを低血糖と言います。特に糖尿病の治療中の方は注意しなければならないことです。

食事量が少ない、激しい運動、薬の過量投与など、低血糖が起こる原因は様々です。

症状には個人差がありますが、冷や汗、動悸、手足の震え、注意力の低下などがあります。低血糖症状が進むと昏睡状態から死に至る危険もあります。

低血糖に気が付いたらブドウ糖や砂糖、糖分を含む飲料を速やかに摂取することで低血糖が改善します。最近では粉末を鼻の中に散布することで低血糖を改善する薬も発売され、昏睡により自分で摂取できない時でも周りの人の対処を受けやすくなりました。



低血糖はいつ、どこで起こるかわかりません。家族や周りの人にも低血糖の症状や対処法を覚えてもらうことも大切です。低血糖について頭の中に入れておきながら、しっかり備えれば過度に気にする必要はありません。『備えあれば憂いなし!』です。

5年ぶりに開催、 第17回 公立岩瀬病院フェスティバル

病院フェスティバル実行委員長 鈴木邦子

毎年開催していた病院フェスティバルも、コロナ禍の影響により開催を断念していました。しかし、令和元年以来、5年ぶりに病院フェスティバルを10月12日(土)に開催することができました。「未来へつなげよう、公立病院から地域の輪」をテーマに掲げ、子どもから大人まで地域の人々に楽しんでいただけるイベントを、病院スタッフが考えに考え、この日のために準備を進めてきました。

開催当日は天候に恵まれ、夏を思わせる日差しの中で、救急車での心臓マッサージ体験など、病院ならではのイベントや縁日コーナーなど、様々なブースが大盛況でした。また、ゲストとして郡山チアリーダーズと須賀川市立第二中学校合唱部を迎え、元気いっぱいのダンスパフォーマンスと心癒される美しい歌声を披露していただきました。



健康講座では「聞いて得する大腸がんのお話」と「大腸がん外科手術の変容とロボット手術」の2講演が行われ、大腸がんの検査や治療、ロボット手術について知っていただける機会になりました。来年もこのようなイベントができるよう、病院スタッフ一同頑張っていきたいと思います。

健康講座では「聞いて得する大腸がんのお話」と「大腸がん外科手術の変容とロボット手術」の2講演が行われ、大腸がんの検査や治療、ロボット手術について知っていただける機会になりました。来年もこのようなイベントができるよう、病院スタッフ一同頑張っていきたいと思います。



へき地医療拠点病院の指定について

この度、当院のへき地医療への取り組みが評価され、福島県知事より令和6年9月30日付けで「へき地医療拠点病院」に指定されました。この指定は、福島県内においてへき地医療の充実を図るための重要な取り組みの一環であり、県内では3番目の指定となります。

へき地医療拠点病院としての役割は、地域住民の皆様に対して質の高い医療サービスを提供することに加え、医療従事者の育成や地域医療の支援を行うことです。これからも地域のニーズに応じた医療サービスを提供し、地域住民の皆さんが安心して生活できる環境づくりに努めてまいります。



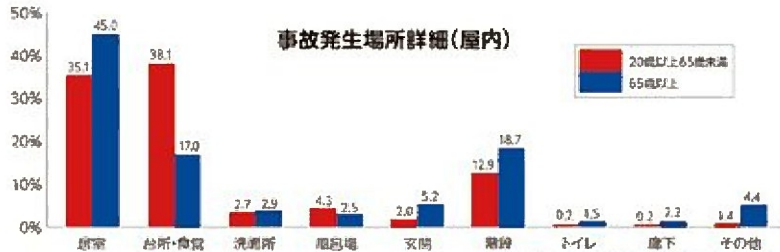
Vol.9



健康運動



身近な場所には危険が潜んでいる!?



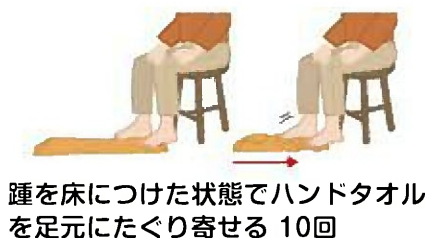
1日を過ごす自宅では居室、台所・食堂、階段での事故が多いとされています。

出典:平成29年版高齢社会白書(全体版)

転倒しやすい箇所とその対策

- 《居間》 電気コードをまたごうとして転倒
 → コードを壁際などに寄せまとめる工夫をする。
 部屋と部屋の境目でつまずいたり転びそうになった
 → 段差解消のスロープを設置したり、蛍光のテープで目印をつける。
- 《台所》 椅子に上がって食器を取ろうとして椅子から転落
 → 食器を低めの取りやすい位置に整理する。
- 《廊下》 夜トイレに行くときに段差や置きっ放しの荷物につまずいて転倒
 → 足元に人感センサー付きのミニ照明を設置する。
- 《階段》 階段の幅が狭い、スリッパをはいての上り下りで滑る
 → 滑り止め用の靴下を履く。滑りにくいように素足で移動する。
- 《玄関》 上がりかまちでのつまずき、立っての靴の脱ぎはきでバランスを崩す
 → 座って靴を脱げるように椅子を準備する。上がりかまちに手すりを設置する。

つまずきにくくなるための運動



※関節痛や内科疾患のある方は主治医とご相談のうえで実施して下さい。



公立岩瀬病院

【編集・発行】

公立岩瀬病院 広報委員会 (広報誌発行部会)

〒962-8503 福島県須賀川市北町20番地
 Tel 0248-75-3111 Fax 0248-73-2417
 E-mail koho@iwase-hp.jp

